

V章 三つの挑戦プロジェクト

—多様な連携や協働により「自立」に向けた挑戦を行います—

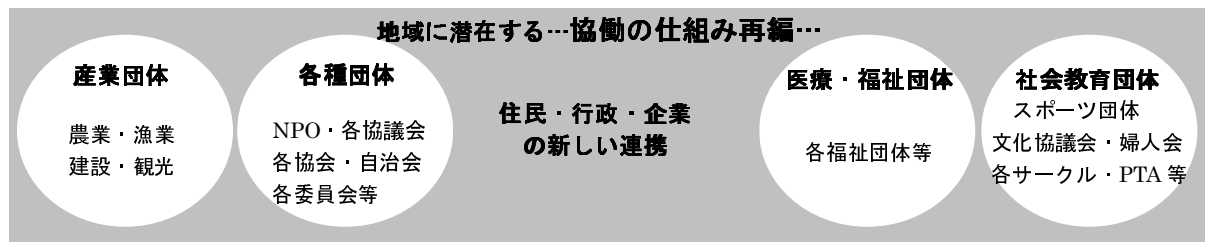
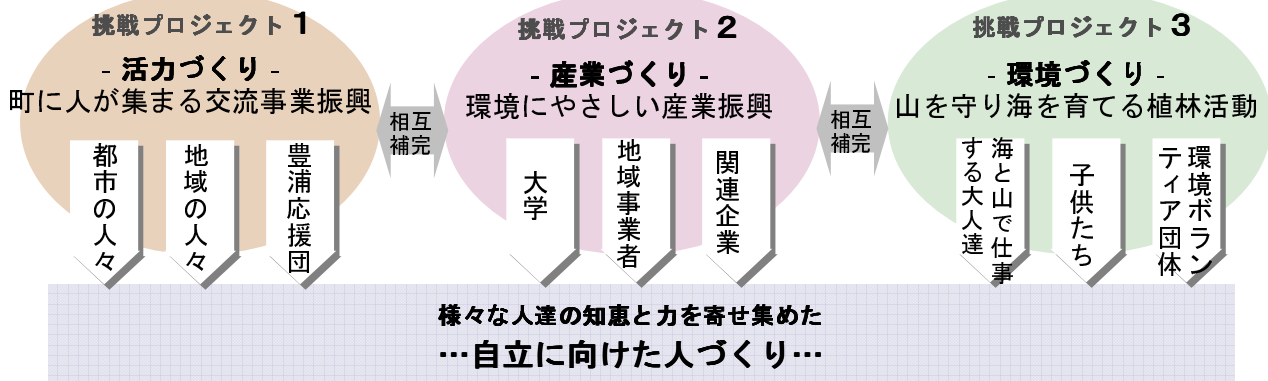
これからの豊浦町は、創意と工夫を凝らしながら、新しいまちおこしに挑戦していかなければなりません。本章では発想の角度を変えながら、豊浦町の潜在能力を見つめ直し、**多様な連携や協働による「豊浦町の自立」**に向けた三つの挑戦プロジェクトを進めます。

挑戦プロジェクトを支える基本的な取り組みの条件

身近な気付きから始まり、町民や関係する人たちが**「取り組みがい」**のある挑戦であること

町民全体で取り組み連携や協働の**「環が広がること」**に繋がる挑戦であること

取り組みの評価を自ら行い、将来を見据える**「自主性」**を喚起する挑戦であること



1

挑戦プロジェクト1 町に人が集まる 交流事業の振興



……活力づくり……

21世紀の北海道の産業として大きく位置づけられているのが観光です。豊浦町も同様に、自然環境と共生し、農水産業や食品加工業との連携を強める新しい観光産業の構築を目指す中で、町外より多くの人々が訪れ評価の高い「いちご豚肉まつり」(6月)、「まるごと豊浦～北の収穫祭～」(2月)を礎にする交流事業の拡大を図り「活力がみなぎる」まちづくりの推進が欠かせません。まずは日帰り型観光の定着を始めに、次に様々なPRによる滞在型へ、究極は豊浦への移住・定住に結びつける一環した交流事業の取り組みを通し、「活力づくり」に挑戦します。

STEP1…ふるさと豊浦ファンづくり

■これからの豊浦は、町のファンを増やしていかなければなりません。子供の頃の体験を通して記憶された、豊浦の風景や人々との絆は、かけがえの無い「心の財産」でもあります。

■その様な想いを寄せる本町出身者が中心となり「札幌豊浦会」「苫小牧豊浦会」や「東京豊浦会」がさらに拡充し、「ふるさと豊浦応援団」に発展させ、豊浦応援団による豊浦と都市を結び付けるPR活動を通じ、豊浦ファンづくりに取り組みます。

STEP2…地域の受け入れ環境を活用し全国区イベントの発信

■豊浦には大型のイベントを開催することができる条件が整っています。近接する洞爺湖温泉街の宿泊施設や鉄道(JR)という大量輸送の強み、さらに交流文化施設「とわにー」や野外施設でのイベント会場との連携活用により、全国区に焦点を合わせたイベント開催の拡充を進めます。

■これからは、鉄道会社や航空会社とのイベント提携を積極的に行い、提携先の宣伝力や企業イメージも付加しながら、大きく全国に向けた豊浦イメージの発信を行います。

STEP3…第2の青春を過ごすまち「豊浦」へ展開



■国の試算によると団塊の世代は、全国に680万人います。団塊の世代が求める夢や、これからの自己実現を叶えるまち「豊浦」を目標に、多くの交流事業を動機にしつつ、移住・定住先に展開する「いかに楽しく暮らすことができるか」の魅力づくりを全町あげて取り組みます。

2

挑戦プロジェクト2 環境にやさしい 産業の振興



……産業づくり……

豊浦町は、「内浦湾(噴火湾)ホタテ貝養殖発祥の地」として培った「育てる漁業」の力と優位性を活用し、さらに「第2の育てる漁業」の開発が求められています。そのため平成19年(2007年)5月23日、町は産官学連携による水産業の振興を図ることを目的に、東海大学札幌キャンパスと「地域総合交流に関する協定」を締結しました。

この知的連携により、今までの近海にいる魚種の放流や増殖を行う漁法概念に捉われず、21世紀の水産業の姿に視点を置いた、新しい水産技術の開発に挑戦します。

STEP1…管理コストや漁獲リスクを低減できる「陸上養殖」の開発

■海面養殖における熱源の確保と制御の難しさに比較し、加熱のための選択肢を多く備える本町のエネルギー環境を組合せた「高付加価値な温帯性高級魚種(マグロ類、ハタ・クエ類、トラフグ)の陸上養殖システム調査・研究」に取り組んでいきます。

■この研究を通し、海面養殖や漁船購入等の管理コストと、漁病被害や台風等による漁獲リスクの低減を図り経営体質の強化と向上を目指します。

STEP2…地域内エネルギーと組み合わせる「環境配慮型の育てる漁業」の形成

■漁船操業に要する燃料の高騰と、温室効果ガス排出の抑制に備え、本町の水産業も環境にやさしい取り組みをさらに進めます。

■町内の豊富な森林資源を利用した木質バイオマスエネルギーや温泉廃熱などの未利用エネルギーと、新しい養殖形態を合理的に組み合わせ、豊浦町独自の「環境配慮型の育てる漁業」の形成を目指します。

STEP3…陸上養殖の長所を活かし豊浦版「食の安全・安心」の確立



■飼育から飼育環境の管理までを一環して、人の手で制御と管理できる陸上養殖の差別化ポイントを活かし、HACCP・トレーサビリティシステムといった「食の安全・安心」を確立することで豊浦漁業のブランドづくりと競争力の向上を押し進めます。

3

挑戦プロジェクト3 山を守り海を育てる植林活動



……環境づくり……

豊浦町は、ホタテの養殖を中核に、サケのふ化放流、アワビやウニの種苗放流、マツカワ稚魚の放流など、町や地域が一つになって「育てる漁業」に取り組んでいます。これらの「育てる漁業」にとって大切なことは、豊かな山林が生み出す「山の栄養」を、川の流れにより海域に運び、ホタテやアワビの餌となる植物プランクトンを供給できる環境の維持と保全です。

言い換えれば、豊かな山林がこれからの漁業を支えていくと言っても過言ではありません。豊浦町は、「山を育て海を守り」、環境と産業が好循環する取り組みとして、全町挙げて植林活動に挑戦します。

STEP1…地球温暖化対策に向けての森林整備事業と連動

■地球温暖化対策について話し合う「北海道洞爺湖サミットの開催」を引き金として、国は間伐や植林による豊かな森づくりを、喫緊の要事として位置付け、平成20年度(2008)から、間伐事業を中心とする豊かな森づくりが本格化します。

■豊浦町は、現在、4,104haの人工林において間伐事業の促進や、北海道洞爺湖サミットを記念して「木育て」の取り組みを推進していますが、これらの取り組みと連動して「豊かな海を育てるための山づくり」を進めていかなければなりません。

STEP2…連携と交流事業による植林活動の形成



■百年の大計とする「山を守り海を育てる」植林活動は、森づくり活動として先駆ける、宮城県気仙沼市と岩手県一関市との共催による「森は海の恋人植樹祭[※]」、東京都新宿区と長野県伊那市との協定による「二酸化炭素削減計画[※]」などを参考にしながら、現在行われている「いちご豚肉まつり」との連携による一泊二日のツアー企画など、都会との交流事業や自然体験交流事業の展開を進めます。

[用語解説] **森は海の恋人植樹祭**：養殖漁場を守るため、気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山で行われている植林活動です。

二酸化炭素削減計画：長野県伊那市は、面積の8割をカラマツなどの森林が占める緑豊かなまち。この森林の整備に、友好都市の東京都新宿区が財政支援し、区の二酸化炭素削減計画に役立てる試みで、区民が伊那を訪れ、枝打ちや下草刈りなどの体験を通して住民との交流を図る事業です。